

戦争から考える平和の大切さ

1 対象学年 中学校1年生

2 ねらい

戦後70年以上が経った現在、家族や親類に戦争体験者がいる子どもは少なく、戦争の背景や起きた理由について知ることは難しくなっているのが現状である。

これからの日本を背負っていく世代である子どもたちだからこそ、戦争の悲惨さや平和の大切さについて考えていく必要がある。戦争により、戦場で戦う軍隊や兵士だけでなく、一般人も犠牲となった。戦時中の男子学生が軍事訓練をしていたことや女学生が工場などで身を粉にして働いていた事実を目を向けさせることで、子どもたちに戦争の恐ろしさや悲惨さを感じさせ、二度と戦争という悲劇を繰り返さないためにも、平和とは何かについて考える機会をつくりたい。

そこで、本実践では、戦争体験記「焼け跡の立つ虹」や写真などの資料、戦争の追体験をもとに、戦時中の子どもたちの様子をとらえさせる。同じ愛知県に生きた同年代の子どもたちが体験した戦争について知り、戦時中と今を比較することで、戦争体験者の平和に対する思いや、命の尊さについて、より深く考えさせたい。また、学習の最後に「平和への誓い」を考える時間をとることで、戦争についての自分なりの考えや平和のために自分たちができることをまとめさせたい。

3 指導計画（15分×4の帯時間を活用）

（1） 第1時 平和と戦争について考える

時間配分	学習活動	教師支援
5分	1 平和とは何かについて考える。 <ul style="list-style-type: none">・ 戦争のない世界・ 誰も悲しまない世の中・ 幸せに暮らすことができる	○ それぞれが思い描く平和のイメージを発表することで、平和のイメージを学級全体で共有できるようにする。
10分	2 防空頭巾を見て、何に使われていたものか話し合う。	○ 防空頭巾の資料や防空壕の写真を見せることで、戦争に使われていたものや戦争当時の状況を知ることができるようにする。 ○ 自分たちと年齢が変わらない子どもも戦争に巻き込まれたことを実感させるために、2枚の写真を提示する。

（2） 第2時 「A子への手紙」を読んで、話し合う

時間配分	学習活動	教師支援
5分	1 「A子への手紙」（戦争体験記「焼け跡に立つ虹」）を範読し、当時の様子を知る。	○ 「A子への手紙」を範読することで、戦争によって自分たちと同じ年代の子どもたちが働かされていたことをとらえられるようにする。
10分	2 戦争体験者の思いについて話し合う。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;">筆者はどのような思いで、A子さんに手紙を書いたのだろうか。</div> <ul style="list-style-type: none">・ どんな小さな命でも大切にすること	○ A子さんへ手紙を書いた筆者の思いについて考えることで、戦争を二度と起こさないようにすることや命の尊さについて考えられるようにする。 ○ 「人間の生命の尊さを忘れた戦争は、二

	<p>を忘れないでいてほしい。</p> <ul style="list-style-type: none"> おばあさんと同じ思いをすることがないように、二度と戦争を起こさず、平和な世の中をこれからも守ってほしい。 あのおときのおばあさんがいたからこそ、お母さんが生きていて、A子さんも生まれることができた。色々な人のおかげで生かされている命だから大切にしてほしい。 	<p>度とあってはならないものである」という思いと、「命を大切に守る心を忘れないでほしい」という筆者の思いを確認することで、命の尊さや平和について考えをもてるようにする。</p>
--	---	---

(3) 第3時 追体験をする

時間配分	学習活動	教師支援
6分	1 戦争の追体験を行う。	<ul style="list-style-type: none"> 前時の戦争の悲惨さについての記述を取り上げ、追体験につなげる。 赤い透明シートを通した景色を見ることで、当時の悲惨さに気付くことができるようにする。 バケツに氷水を張り、手を入れて冷たさを実感することで、川の中に逃げ込んだ当時の人々の思いに気付くことができるようにする。
6分	①空襲による真っ赤な世界を体験する ②東京大空襲についての話を例に、氷が張った隅田川を再現して、体感する。	
3分	2 感想を記入し、意見交換する。	

(4) 第4時 平和への誓いを考える

時間配分	学習活動	教師支援
4分	1 「平和への誓い」の紹介を聞く。	<ul style="list-style-type: none"> 広島市の平和記念式典の子ども代表「平和への誓い」を動画で紹介することで、戦争が引き起こす恐ろしさや悲しみについて考えることができるようにする。
7分	2 それぞれの「平和への誓い」を考える。	<ul style="list-style-type: none"> 第1時で考えた「平和のイメージはどんなものか」、第2時で扱った「A子への手紙」についても一度思い出すことで、それぞれの平和への願いや自分にできることを考えることができるようにする。
4分	3 振り返りをする。 <ul style="list-style-type: none"> 誰もが悲しむ戦争を二度と起こしてはいけない。 平和な世界が続くように、自分にできることをしたい。 自分自身の命を大切に生きていくことを心がけたい。 	<ul style="list-style-type: none"> 振り返りの視点を明確にするために、戦争についての自分なりの考えや平和のために自分にできること、かけがえのない命をどのように大切にすべきかを書くことよいと伝える。

4 実践

(1) 第1時 平和と戦争について考える

はじめに、平和とは何かについて考えることを伝えた。「今のみなさんの生活は平和ですか」と問いかけた。33人中29人が「今の生活は、平和だ」と答えた。「毎日食べ物に困らないから」「争いや戦争が起きることはないから」といった理由があげられた。反対に、「平和ではない」と答えた4人に理由を問うと、「新型コロナウイルスの影響で多くの人が苦しんでいるから」「いつもマスクをしなければならず、今までのように外出できないから」という意見があがった。今の生活が必ずしも平和ではないと感じている生徒がいることがわかった。

① 平和とは何か

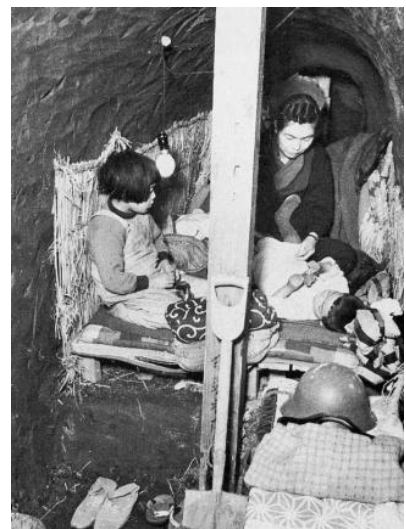
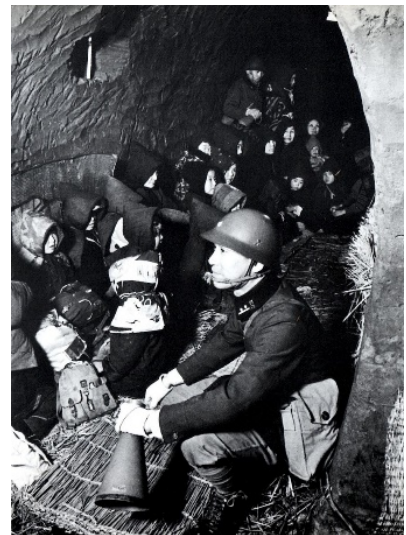
「平和とは何か」について一人一人が考える時間をとった。記述の内容を見ると、ほとんどの生徒が、「争いがない世界」「戦争のない世界」と書いていた。意見を出し合っていく中で、「全員が幸せだと感じられること」「武器をもたず、安全だと思える世界」「公平な世界」「人が人に殺されない」といったような意見が出た。その中で、「平和だとみんなが思えるには、何が最も大切か」と問うと、「争いや戦争がないこと」という意見にまとまった。平和の反対に位置するものが、「争い」や「戦争」というイメージをもっていることがわかった。

② 戦争について知る

国語の授業で扱った教材「大人になれなかった弟たちに…」を通して、戦争に対してどのようなイメージをもったかを問うと、「食べ物に困る」「子どもたちは防空壕に逃げなければいけない」「当たり前前の生活がどこにもない」という意見があがった。

そこで、実際に防空壕に避難しているときの写真や防空頭巾の写真を提示した。立つことのできない狭さの壕で何時間も避難しなければならなかったことや、何人も人が押し込まれるようにして逃げ込んでいたことを伝えた。生徒からは、「こんなに狭い中に逃げ込んでいたのか」「冬だと防空壕の中は寒いのかな」という感想があった。壕での生活に興味をもちながら、当時の生活が想像以上に苦しいものであったことを理解しているようだった。

最後に、振り返りを書いて授業を終了した。「平和とは、争い、戦争がない世の中だと感じました。戦争では、たくさんの方が亡くなり、苦しんでいたと思います。何の罪もない人たちが争いに巻き込まれ、苦しい思いをしなくてはいけない戦争の時代は、とても平和だとは言えません」「平和とは戦争が起きないことが一番だと思います。私は戦争を経験したことはないけれど、『火垂るの墓』や『大人になれなかった弟たちに…』などのお話から、戦争はこわくてつらいものだということはわかります。せまい部屋で何時間も身をひそめたり、食べ物が十分になかったりする世界は、平和とは言えないと思います。人が亡くなるというのは、なによりもつらいことだと思います。」などの戦争の悲惨さを感じている記述が見られた。



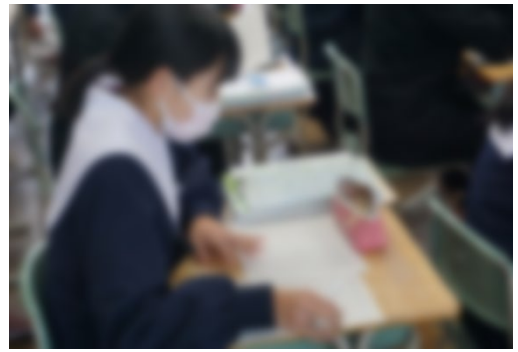
【防空壕における生活がわかる資料】

(2) 第2時 「A子への手紙」を読んで、話し合う

前時の振り返りをいくつか紹介することで、平和や戦争に対してどのようなイメージをもっているか、どのような感想をもったかを学級で共有した。

本時では、「焼け跡に立つ虹」の「A子への手紙」という話を取り扱った。同じ愛知県に生きた同年代の子どもたちが体験した戦争について知ることができる話である。話を読み終えた後、「筆者はどのような思いで、A子さんに手紙を書いたのだろうか。」と発問をした。

発問に対しての話し合いにおいて出された意見は、以下の通りである。



【A子への手紙を読む生徒】

- ・ 手紙を通して、A子に戦争がどんなにつらいことかを伝えるためです。また、立派な大人になって、他人の心の痛みや悲しみをわかる人であってほしいという思いが込められている。自分の命、どんなに小さい命も大切にしてほしいという思いも込められていると思います。
- ・ A子さんのお母さんはつらい空襲をのりこえて、生きてきたことを伝えるため、戦争での恐怖や国のためにと亡くなった人がいることを忘れないようにさせるため、自分の命の大切さを教えるためだと思います。
- ・ 戦争のことを知らないA子さんに戦争の苦しみや命の尊さをよく知ってもらいたいです。次の世代へとつないでいき、戦争はこの先絶対にあってはならないことだということをずっと忘れないでほしいです。二度と戦争を起こしてはいけないと伝えなかったのだと思います。

話し合いを通して、「人間の生命の尊さを忘れた戦争は、二度とあってはならないものである」という思いと、「命を大切に守る心を忘れないでほしい」という筆者の思いに気づくことができた。戦争の苦しみや命の大切さに目を向けることで、自分たちの生活とはかけ離れている戦争について、より深く考えることができた。

授業の終わりに、「実際に空襲が起きると町や人はどうなるか」と問いかけた。生徒からは、「爆弾が落ちてきて焼け野原になる」「あちこちで火事が起きて、人は逃げなければならぬ」と空襲が起きたときの情景を想像できる意見が出た。防空壕に逃げたり、燃えないように川に逃げ込んだりする人がいた事実を伝え、次時は、実際の戦争を経験することはできないので、戦争の迫体験をすることを伝えた。

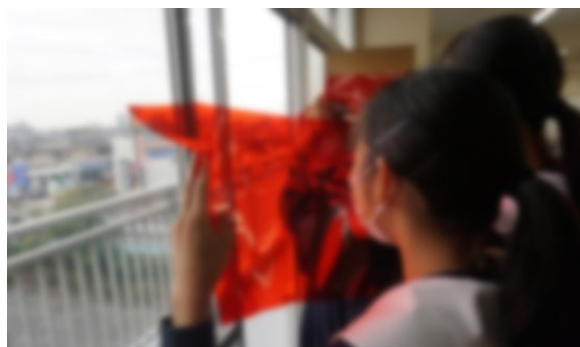
(3) 第3時 迫体験をする

2つの迫体験をすることにした。一つ目は、赤い透明シートを通した景色を見ることで、当時の悲惨さに気づくことができるようにする体験である。二つ目は、バケツに氷水を張り、手を入れて冷たさを実感することで、川の中に逃げ込んだ当時の人々の思いに気づくことができるようにする体験である。実際に体験をすることで、まったく同じとはいかないまでも、戦争時の情景を思い浮かべたり、どのような気持ちになるのかを知ったりする機会とした。

① 赤い透明シートを使った迫体験

空襲において爆弾が投下され、周りが焼け野原になると想定し、赤い透明シートを使って、学校の中や外の景色を見る体験を行った。実際に外の景色を見ると、すべてが赤色に染まって見え、いつも見ている色鮮やかな世界は姿を消してしまうことに驚きの声があがっていた。感想を聞くと、「ずっと見ていると、色の感覚がなくなって少し悲しい気持ちになる」「雲や空まで赤く見え、校舎

や建物の色気もなく、昭和のモノクロ写真みたいだった」と答えた。戦争が起き、空襲に怯える毎日を想像し、自分の住む町が赤色に染まってしまう悲しさや悲惨さを感じることができたようだった。

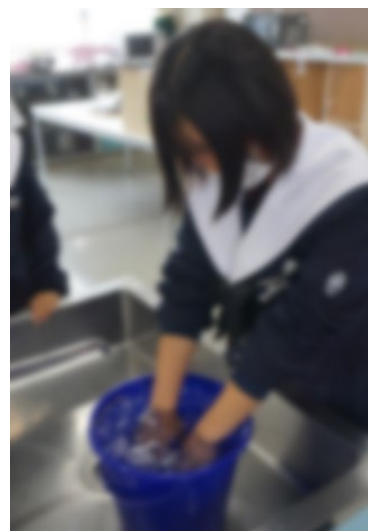


【赤い透明シートを使って外を見る生徒】

② 氷水に手を入れる体験

空襲によって炎が燃え盛る中、逃げ場がなくなり、川に飛び込んで命をつなごうとした人がいることを想像して、氷水を張ったバケツに手を入れる体験を行った。手を入れた瞬間に、「冷たい」「もう手を出していいですか」と声をあげる生徒の姿が多くあった。想像していたよりも冷たく、長時間手を入れていると感覚がなくなってきたり、冷たいという感覚から痛いという感覚に変わったりした生徒もいたようだった。

感想を聞くと、「1分間つけていただけなのに、とても長く感じた」「全身が川に浸かった状態だったことを考えると恐ろしくてつらい」「自分の命を守るために、寒くて痛い感覚になってしまう水の中に飛び込まなければいけないというのは、それほど死が近いとも感じる」と答えていた。想像以上に過酷な環境で、自分の命を守らなければいけなかったことを体験し、驚きを隠せない生徒の姿が多く見られた。



【氷水に手を入れる生徒】

(3) 第4時 平和への誓いを考える

広島県で毎年8月6日に行われている平和記念式典について説明をした。8月6日が何の日かを問うと、「原爆が落とされた日」と答える生徒がいた一方で、それを知らない生徒もいた。平和記念式典の中で毎年行われている「平和への誓い」を紹介した。これは、世界の子どもが「こどもピースサミット」において話し合った結果を平和への決意として述べたものである。生徒たちにとって、これからの未来を担っていく同じ世代の子どもたちがどのような内容を話すのか、興味関心をもって映像を見ていた。

映像を視聴し、それぞれの「平和への誓い」を考えた。実際に戦争を体験したことがない生徒にとってどのような誓いを立てたらよいか戸惑う様子もあったが、「A子への手紙」の話や追体験を通して感じたことをもとにして、一人一人の思いを込めて書く様子があった。以下は、生徒が書いた平和への誓いの文章と授業を通しての振り返りである。

○平和への誓い

戦争などの争いは二度としてはいけない。そう思いました。戦争の悲しみ、苦しみは全てを理解していくのは難しいけれど、こういった授業を通して、こうして生活できていることはとても幸せなんだなと実感しました。平和への誓いの話の中でもあったように、「相手の思いに寄り添い、笑顔で暮らせる平和な未来」をつくりあげていくために、これから生まれてくるたくさんの子たちにも戦争のこともひきついでにあってあげないといけないなと思いました。

◎振り返り

今回聞いたことや体験したこと、戦争をしていた時代の日本人の一部でしかないと思います。そうやって考えると、戦争は二度としてはいけないという思いが強くなっています。全ての人が平和を望んで、楽しい生活が送れるようになるために、そうはいわゆるのがとても難しい問題だなと思います。いずれにしても、幸せな世の中にやっていくというのを思います。

【平和への誓い】

【授業を通しての振り返り】

「戦争を二度と起こしてはいけない」という思いをほとんどの生徒が書き記していた。一人一人が「平和への誓い」を考え、文字に起こすことで、戦争を起こさないために自分にできることは何かを考えることができた。「互いに認め合うこと」「誰に対しても優しい心をもつようにして生活すること」などが、平和をつないでいくために自分ができることとして多く書かれていた。

さらには、「これから生まれてくるたくさんの子たちにも戦争のことも引き継いでいってあげないといけない」と考え、自分たちが平和を意識して生活するだけでなく、いずれ戦争を体験した人が語り継ぐことができなくなる時代がくることを考え、次世代に自分たちが語り継いでいこうと考えを深めている様子が見られた。

5 実践の成果と今後の課題

今回の実践は、15分の帯時間を使い、計4回にわたって取り組んだ。普段できない体験を15分間だけでも体験したり、戦争の悲惨さを知ったりすることで、平和への考え方を深めることができると考えたからである。また、長時間の単元構成ではなく、帯時間を活用した短時間の実践を行うことで、平和教育を子どもたちに身近なものに感じてほしいと考えた。

第2時で「焼け跡に立つ虹」の「A子への手紙」の話を紹介したことで、実際の防空壕での生活の様子や、迫りくる死や命の尊さを感じることができていた。国語科の授業で戦争の題材を扱っていたこともあり、興味をもって話を聞き、A子へ込めた手紙の中から筆者の平和への願いを一人一人が深く考えることができていた。一方で、「焼け跡に立つ虹」は難しい内容が多いため、教師が内容を一部抜粋したり、解説を加えたりと、工夫をして活用する必要があると考える。

短い時間の体験ではあったが、第3時の追体験の時間が多くの生徒の印象に残ったようであった。赤い透明シートを通した景色を見ることで、当時の悲惨さに気付いたり、氷水を張ったバケツに手を入れて冷たさを実感することで、川の中に逃げ込んだ当時の人々の思いに気付いたりすることができた。戦争についての話を読んだり、実際の写真を見たりすることだけでも、平和を考えることや戦争を知る機会にはなるが、生徒にとってはどこか遠い世界の話でうわべだけの授業になってしまうことが多い。実際に追体験をしたことで、戦争に対しての生徒の本音を引き出したり、平和な世界をつくるためには戦争があってはならないと考えたりすることができた。

帯時間を使っての短い時間での実践ではあったが、効果的な資料や体験活動を取り入れることで、生徒の考えを深めることができたと考える。15分間の実践を計4回にわたって取り組んだが、合計すると60分間となり、おおよそ1時間分の授業と同等である。同じ内容を1時間完了で終わってしまうと、生徒の考えもその場限りのものとなってしまうが、短い時間で数回に分けたことで、戦争や平和に対して考えをより深める機会になったのではないかと考える。15分間での活動でも継続していくことで、生徒の考えをより深めていくことができるだろう。

一方で、第4時の「平和への誓い」では、何を書いているのかわからない、平和な世の中をつくるために自分にできることが思いつかない、といった姿が一部の生徒から見られた。短い時間の中ではあるが、資料を読んだり、体験をしたりするだけでなく、生徒の考えを深める話し合いなどの時間をとるように授業の流れを工夫すると、第1時と比べて、平和に対する考えや自分事としてとらえた感想や記述の変容が見られたのではないかと考える。

この平和学習で考えたことと、一人一人の平和へのとらえ方や平和を維持するために自分に何ができるのかということ、学校生活につなげていくことが今後の課題である。